



地域のつながりの基点に
住みやすい地域づくりに貢献したい

profile

洞爺に引っ越して約11年。洞爺湖マラソンを何度も完走。子ども6人は全員洞爺が故郷。胆振地域でただ1人の緩和医療専門医。モットーは「和顔愛語」。洞爺町在住。

Spotlight

スポットライト



「みんなのカフェ」をオープン
ひじり在宅クリニック院長

岡本拓也さん

「気軽に立ち寄ってもらって、いろいろな人と話したり、協力したりして、困りごとの解決の一助となる場所にしていきたい」
地域の居場所づくりへの思いを語るのは、10月26日、ひじり在宅クリニック内に、地域カフェをオープンした院長岡本拓也医師。
兵庫県淡路島の出身で、京都大学法学部を卒業後、法務教官を経験。恩師の紹介で札幌に移住し、教会関係の仕事を手伝っていた時、ある本に出会い「全人的医療」を知りました。「身体や心の問題など、いろいろな辛さに寄り添っていく医者になりたい」と25歳の時一年発起して医者を志し、北大の医学部に入學。卒業後、3つの病院で研鑽を積み、2008年洞爺温泉病院のホスピス長に着任し、2年半前から現在のクリニックで、胆振西部唯一の在宅療養支援診療所として、訪問診療に力をいれています。

訪問診療は、本人が望む場所での生活を支え、みとりまで行う医療で、24時間の対応を必要とします。現在は約120人の在宅患者を1人で診ています。

「これからますます高齢化が進む社会において、医療・介護・福祉が一体となって地域全体で互いに支えあっている地域包括ケアシステムや共生社会を創っていく必要がある」と話し、そのために訪問診療や地域カフェが重要な役割を果たすと考えています。

東奔西走

にぎわい広場では11月からイルミネーショントンネルが点灯され、とてもきれいで感動しました。点灯式で配られた岡田屋さんの甘酒もとてもおいしかったです。(C.K)
「もういつ寝ると…」なんて言いながら指折り数えていたのも遠い昔。1年過ぎるのが本当に早く感じます。ただぼんやり過ごしていることは本当にもったいないことだと思う12月です。(H.O)

今月のワンショット



西山散策で第2展望台近くの噴気孔を見学する参加者たち



2018年は北海道150年
Hokkaido's 150th Anniversary

